

区制九十周年記念

文化参、七十年のあゆみ

江戸川区

江戸川区文化会



江戸川区総合文化センター

江戸川区文化祭会場



タワーホール船堀

昭和二十八年 第一回文化祭会場

目次

ご挨拶

江戸川区長 齊藤 猛

文化会会長就任のご挨拶

江戸川区文化会会長 石田 宗明

第七十回文化祭の開催にあたり

江戸川区文化会名誉会長 小久保 晴行

第七十回文化祭の開催にあたって

江戸川区議会議長 福本 光浩

江戸川区文化会.....14

江戸川区文化会規約.....16

江戸川区俳句連盟.....18

江戸川区川柳作家連盟.....28

江戸川区書道連盟.....38

江戸川区美術会.....48

江戸川区華道茶道協会.....54

江戸川区短歌連盟.....62

江戸川区芸能文化協会.....72

東京都・江戸川区無形民俗文化財保持団体連絡協議会.....83

江戸川区囲碁連盟.....98

表紙題字 江戸川区文化会理事長・江戸川区書道連盟理事長 根田 雅風

ご挨拶



江戸川区長 齊藤 猛

江戸川区文化祭が記念すべき第七十回を迎え、大変盛大に開催されましたことを、心よりお喜び申し上げます。昭和二十八年、文化芸術に熱い情熱を持つ有志の皆さんが集い、第一回江戸川区文化祭が始まりました。その後、昭和三十九年に、「江戸川区文化会」が正式に発足し、歴代会長をはじめとした先人たちの大変なご努力により、江戸川区文化祭の礎が築かれて、発展してきています。現在の文化会は九団体で構成されており、区の文化振興に幅広く活躍しております。

近年は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、文化祭をはじめとした多くの文化行事等が自粛を余儀なくされ、区民の文化活動に大きな影響を及ぼしました。私は当初より文化は不要不急のものではないと考えてきました。その後、自粛期間が長期化していくにつれ、文化活動が人々の生活にとっていかに大切なものか、人々に潤いや感動を与え、生きがいに繋がるものだ、文化芸術の重要性を改めて再認識しました。

今年の「第七十回江戸川区文化祭」は三年ぶりに開催され、再開を待ちわびた多くの皆様の生き生きと輝く笑顔が大変印象的でした。また、文化会に加盟する団体の皆様の力強い作品や対局、舞台発表を鑑賞させていただきました、改めて日本の誇る伝統文化の素晴らしさを実感したところです。

この七十年の間に人々の生活は大きく変わり、文化芸術の分野でも多様化が進んでおりますが、皆様の芸術に対する情熱や地域を愛する思いは、変わることなく受け継がれています。

これもひとえに、石田宗明文化会会長をはじめ文化祭に携わる皆様のご努力の賜物であり、改めて敬意を表し感謝を申し上げます。

これからも、江戸川区文化会の皆様と手を携え、区の文化振興のために力を尽くしてまいります。結びに、江戸川区文化祭の益々の発展と、関係各位のご健勝、ご多幸を心から祈念し、ご挨拶いたします。

文化会会長就任のご挨拶

江戸川区文化会会長 石田 宗明



このたび、江戸川区文化会の皆さまのご同意を得まして会長に就任させていただきました。この場をお借りいたしましたこと、ご挨拶申し上げます。

前任の小久保晴行会長は、文化に対して高い見識をお持ちの方で、また、昭和六十二年から三十五年もの長きにわたり会長を務められ現在の文化会の礎を築かれた偉大な会長でいらつしゃいました。そのあとに就任するにあたって改めてその責務の重さに身の引き締まる思いがいたします。

なお、長年江戸川区の文化を牽引してこられました前小久保晴行会長にはこれからも名誉会長として私どもにご指導いただけることになりました。今後ともお力添えいただけるようお願いいたします。

新型コロナウイルス感染症の影響で、今年、文化祭は三年ぶりの開催となりましたが各団体の皆さまのご努力のおかげで成功裡に開催、終了することができました。多くの区民の皆さまが文化祭を待ち望んでくださっていた姿に接して私たちの使命を改めて感じたところでございます。

また、第七十回を記念して新たな文化団体にも参加していただきイベントを開催いたしました。多くの皆さまに文化祭に気軽に参加していただくため、今後新たな取り組みを展開していきたいと考えております。

小久保晴行前会長の著作である「されど未来へ」の中に、「大きな課題がそれぞれの文化の継承者、後継者を育てる、それはとりもなおさず未来に向かって生きていく証となる」と書かれております。先人たちが努力を重ねて育んできた文化の種はいまこうして大輪の花を咲かせ、大きな実を付けました。この素晴らしい文化を私たちは私たちの手で次世代につなげていかなければなりません。そのためにも、微力ながら力を尽くし、さらに努力を重ねていく所存でございますので今後も文化会に対しましてご理解、お力添えいただきますようお願い申し上げます。

結びに、第七十回文化祭の開催にあたりご尽力くださいました斉藤区長をはじめ区議会、区役所の皆さま、そして本誌編集委員の皆さまに感謝申し上げます。



第七十回文化祭の開催にあたり

江戸川区文化会名誉会長 小久保 晴行

江戸川区文化祭が第七十回を迎えましたことを、心から嬉しく存じ、文化祭開催のためにご尽力いただきました関係者の皆様方へ感謝申し上げます。

令和四年十一月三日、総合文化センターで執り行われた記念表彰式において、斉藤猛江戸川区長より特別功労賞を頂戴しました。大変名誉ある賞をいただき感激しております。また、同様に文化祭に携わってきた百五十五名に感謝状をいただきました。私にとっても、また長年にわたり文化振興を担ってきた同志の方々にとっても、まことに意義深いものであります。

昭和二十八年、当時は戦後の復興期であり、「文化果つるところ」とも言われた江戸川区ですが、敗戦後の混乱した人心を、文化芸術の力で少しでも和らげようと、先輩方が自発的に集まり、第一回江戸川区文化祭が開催されました。

昭和三十九年には、石橋源太郎初代会長をはじめ諸先輩方の不断のご努力により「江戸川区文化会」が発足しました。心から敬意と感謝の意を表するとともに、改めてこの七十年間に活躍され、立派な業績を残された諸先輩の方々の面影が私の臉に浮かびます。

この間、各団体では世代交代が行われ、幾多の困難を乗り越えて、それぞれの立場において発展を続けてきました。我々は、先輩方が築き上げた貴重な歴史を振り返り、さらなる努力を重ね、新しい時代を創り上げていかなければならないと考えます。

さて、本年一月、私の後任の江戸川区文化会会長に、江戸川区華道茶道協会石田宗明理事長が就任されました。新たに就任いただいた石田会長のもと、各団体の皆様方が力をあわせ、文化祭をさらに盛り上げていただければと思います。私も微力ではありますが、引き続き力を尽くしてまいりたいと存じます。

結びに、江戸川区文化祭の益々の発展と、文化会各団体の皆様のご健勝を祈念し、ご挨拶いたします。

第七十回文化祭の開催にあたって

江戸川区議会議長 福本 光浩



江戸川区文化祭が七十回の節目を迎えましたことを心よりお祝い申し上げます。

区民文化向上の基礎となった文化祭が誕生したのは、昭和二十八年十月のことです。当時はまだ戦後復興の途上にあり、多くの区民が物質的な豊かさを求める中で、伝統文化や芸術の発展のために歩み出したことは、大変意義深いことであつたと思います。

まちづくりも発展途上であり、生活もままならない時代に、何としても文化祭を開催したいとの希望を持ち続け、七十年の歳月を経て今日に至っております。往時の関係各位のご努力に対し、敬服するとともに、区民文化発展の道筋を切り拓いていただいたことに、改めて深く感謝いたします。

現在、心の豊かさの象徴ともいえる文化活動は、文化祭を中心として、区内のいたるところで活発に行われています。老若男女が自分の感性を磨き、人々に感銘を与え、心に豊かな潤いと安らぎをもたらしてくれています。文化活動の拠点となる施設は、今年四十周年を迎えた文化の殿堂である総合文化センターや、本区のシンボル施設であるタワーホール船堀を中心に、各地域にはコミュニティ会館等が整備され、誰もが身近に文化に触れることができる文化都市へと発展してきました。

文化は自らの手で築きあげてきた有形・無形の成果であり、人から人へと伝えられ、継承されていくものです。十年後、二十年後、さらには百年先の区民文化はどのような発展を遂げているのか、想像をするだけでも楽しく、心が豊かになってまいります。

江戸川区文化祭は、区民文化を牽引してきました。七十年という歴史の重みと、これまで継承してきた伝統に裏打ちされ、今後さらに発展し、人々の心の安らぎと支えになるものと確信しております。

文化祭に関係する皆様方におかれましては、今後も本区の文化向上のため、より一層のご尽力を承りたくお願い申し上げます。

江戸川区文化会

創立 昭和三十九年



会長 石田 宗明

- 会長 石田 宗明 (華道茶道協会)
- 理事長 根田 雅風 (書道連盟)
- 理事 山内 健治 (俳句連盟)
- 福井 勲 (川柳作家連盟)
- 成瀬 薫江 (書道連盟)
- 藤澤 微道 (華道茶道協会)
- 長谷川紫穂 (短歌連盟)
- 藤本 秀康 (芸能文化協会)
- 田崎 国男 (芸能文化協会)
- 大野 正夫 (無形民俗文化財保持団体連絡協議会)
- 岩楯 一彦 (無形民俗文化財保持団体連絡協議会)
- 田島 弘資 (囲碁連盟)
- 名誉会長 小久保晴行 (美術会)

文化会の歩み

戦後、一面の焼け跡の廃墟の中、東京都は社会教育課を誕生させ、文化芸術や公民道徳の高揚と民主主義の啓発に努めてきた。

江戸川区では、昭和二十一年三月に、社会教育課が生まれ、翌二十二年には社会教育係となり、二十六年には、文化課が設けられてその中に文化係、体育係、更生係を置いて、中央官庁の活動とも呼応して文化の普及と文化財の保護活動に努力した。

昭和二十七年十一月に江戸川区教育委員会が誕生して、学校教育課と社会教育課を設けて、後者に文化係と体育係が置かれた。この年から際立って一般の文化活動も活発化することになった。

この年、小岩地区と小松川地区で春秋の文化芸術行事が初めて開催されて、各種目への参加人員は延べ二万人を超えて盛況であった。

翌二十八年十月には、関係者の努力が実って第一回江戸川区文化祭が正式に誕生し、以来ここに七十年の星霜を重ねることになったのである。

一〇、〇〇〇名余の方々がご覧になった。

文化祭は、江戸川区の年中行事となって区民の一大イベントになり、区内に深く根づいて来ているが、これも多くの先輩たちの偉大なご苦労の賜物であり、ここに心から敬意を表したい。

今後の課題としては、参加者の中から是非とも次代のよりよきリーダーを育成して行くことによって、さらなる前進をして行くことであると確信している。

年 譜

年	譜
昭和二十年	太平洋戦争終結。
昭和二十六年	区に文化課が設けられて文化係を置く。
昭和二十七年	江戸川区教育委員会が発足して社会教育課が設けられ、文化係が置かれた。この年、小松川公会堂が完成し、その記念に絵画、彫刻、生花展が開催された。
昭和二十八年	正式に第一回江戸川区文化祭が開かれた。
昭和三十九年	この年から、区の文化諸行事を八種目に統一して、秋にまとめて一本化し、江戸川区俳句連盟、川柳作家連盟、書道連盟、美術会、華道茶道協会、短歌連盟、芸能文化協会、菊花会、葛西囃子睦会により正式に「江戸川区文化会」が成立した。初代会長には、石橋源太郎氏が就任し、区から江戸川区文化祭の運営が全面的に委託された。
昭和四十七年	文化祭二十回記念式典が開催されて、区長から功労者表彰が行われた。
昭和五十八年	総合文化センター落成。文化祭三十周年記念式典が開催されて、区長から功労者表彰が行われた。

昭和三十九年には、江戸川区文化会が生まれ、石橋源太郎(短歌連盟理事長)が初代会長に就任して、従来実施されていた各会の文化諸行事を統一して八種目にまとめて、春秋二回開催されていたものを秋の文化の日の前後に開催することとして、その運営を文化会に託されたものである。ここに文化祭と文化会の一体化が完全に実現したのである。

昭和三十年年代半ば以降、わが国は高度経済成長による社会構造の変化と物質文化の拡大によって地域住民の中に、より心の豊かさを求めたいという欲求が、自然にまた急激に増大し始めた。その流れに沿って、文化祭も時代と共に変革し続けてきた。

昭和四十七年の第二十回文化祭には、文化祭運営の功労者が江戸川区長から表彰されたが、その後、昭和五十八年の三十周年、平成四年の四十周年、平成十四年の五十周年、平成二十四年の六十周年記念文化祭にもやはり区長から感謝状が贈呈され、長年の功労に報いた。

また今回、令和四年十一月三日、文化の日に江戸川区総合文化センターにおいて斉藤猛江戸川区長から百五十六名の方々に感謝状が贈られた。

第七十回記念文化祭には、二、七〇〇名余の区民をはじめとした参加者(出品者)があり、

第七十回記念文化祭ポスター

昭和六十二年	石橋会長死去によって、二代会長に小久保晴行氏が就任した。
平成四年	文化祭四十周年記念式典が開催されて、区長から功労者表彰が行われた。
平成十一年	総合区民ホール落成。
平成十四年	文化祭五十周年記念式典が開催されて、区長から功労者表彰が行われた。
平成二十四年	文化祭六十周年記念式典が開催されて、区長から功労者表彰が行われた。
令和四年	文化祭七十周年記念式典が開催されて、区長から功労者表彰が行われた。
令和五年	二代会長の小久保晴行氏が名誉会長となり、三代会長に石田宗明氏が就任した。